

原発事故被害者 相双の会

連絡先

國分富夫（会長）

住所

〒976-0052

福島県相馬市黒木字迎畑 91-12

電話 090 (2364) 3613

メール kokubunpisu@gmail.com

事務局

鈴木宏孝 090-2909-6133（浪江）

関根憲一 090-4889-3726（富岡）

板倉好幸 090-9534-5657（南相馬）

会報 162 号で北海道の旅で報告を 163 号へ続き久世薫嗣（くせしげつぐ）さんの人生をかけた生き様は言葉ではなく日々の行動で引きつけ、子供たちの夢と希望を与えるために、社会的弊害等々で被害を受けた子供たちのために、垣根を問わず、チェルノブイリの子供たち、福島第一原発事故で被害を受けた子供たちの保養を始めました。生きることへの最も大切な取り組みをしてきた久世さんに感銘しました。その報告を前編として報告いたします。 國分富夫

エベコロベツ自給のむら

エベコロベツとはアイヌ語でなんでも豊富（ほうふ）にある川という意味で、豊富町（とよとみちょう）の語源です。 久世薫嗣（くせしげつぐ）

北海道の最北稚内市から南に 40km のところの丘陵地帯で基幹産業は酪農です。

1989 年の春、兵庫県の山奥で 6 年間自給自足の生活をした後、牛、豚、鶏、犬達と家財道具を 10t 車に積みノアの箱舟の様に移住してきました。

移住先は原野で身の丈ほどの雑草に覆われた所で牛舎は壊れて使い物にならず、住宅も無く、まず



はテント（インディアンテント）を張って雨露をしのぐ。まず家作り🏠、古い教員宿舎をもらえたので解体

して来て、その材料を使って建設🔨 秋には住めるようになり、北海道仕様の住宅で快適な初めての冬が過ごせた！

次の年の夏には豊富町の隣町、幌延町が誘致を目指している核のゴミの反対のサマーキャンプを開催、旭川市から川村さん達（アイヌの人達）に来て貰いこの大地に生活させて欲しいとカムイの祈りをしてもらった。



入植4年目からチェルノブイリの子供達の保養を始める。ドイツ等ヨーロッパでは事故後すぐに始まっていたが、日本では対応が遅かったが北海道でも始まる。(その後4年間受け入れる)

2000年幌延問題(貯蔵工学センター計画)白紙撤回、改めて核のゴミの研究所計画申入れ、北海道条例で「核のゴミ受け入れがたい」

2014年夏、幌延の核のゴミを考える夏の全国交流会(豊富町)、私は9月大腸癌が見つかり半年の間に4回もの手術を受け、生死をさまよってきました。今年2月の手術では癌は取りきれなかったものの、小腸の半分と大腸の半分がなくなり、現在は食べ物が消化できるようになっています。

今は抗がん剤はもとより全ての薬をやめて、自分の身体の免疫力をつけるために、身体の欲するものを自分で料理して食べるという基本的なところに戻って生活しています。

医者のみたてでは、もって1年、うまくいけば2年は生きられるとのこと。今は12月で手術から10ヶ月は生きてこれました。奇跡的に生き返ったということは、もう少し自分にはやる事が残っているのだと、思うにいたったのです。

2015年、福島の子供達の保養を計画、「自給のむら」福島の子供達の保養を立ち上げ経緯

自分の人生で経験した兵庫県の山奥での自給自足の生活を文章で伝えようと思ったけど、文章ではなく実践の中で伝え残したいとの思いが強く、今回の「自給のむら」プロジェクトの立ち上げにいたりしました。

自給し自足する(欲望をコントロール)、そして自立する。理念としては、兵庫県の山奥での6年間と北海道に移住して27年間の合計33年間買ってきたものです。具体的にはその土地、地域によってい

ろいろな形態があります。

北海道のこの地においては、隣町の幌延町が核のゴミの誘致に動いたときから、生活を築くことと国との闘いが同時並行して進行していきました。

国の意志は権力と金を使って、政治・経済・文化等総力をあげての介入が続いてきました。

そして今、福島の問題は否応なく全国、全世界的な問題になってきています。

この地での闘い方は？

このテーマを探しながら非日常の課題(核のゴミ)を日常の世界の中

で営んできました。基本的には自分が、自分の家族が自立する事。そして地域も自立する事。それを日常的な闘いとして位置づけ、深化してきたのです。

私達のこの地での闘いは負ける事はないと自負しています。しかし、勝てない現実に対してはもどかしさを感じています。国策は石炭、核のゴミ、自然エネルギー、観光へと変化していっています。全て地方からの収奪と文化的侵略です。

この「自給のむら」は、人としての根源的な問いかけをしつつ、自分たちの生きる能力を開花していく場として位置づけています。年齢、性別を越えて賛同者も集まりはじめ、少しずつ実行しています。自給への道は完成された姿があるのではなく、半永続的に続くと思われ、この大地あつての試みだと思えます。

追記「自給のむら」での保養は福島の子供達を優先しますが、関東圏の子供達も可能な限り対応します。福島原発事故の影響は広く関東圏にも及んでいます。朝起きれない、学校に行けない、風邪をひき

向かって車🚗で逃げた事！食糧も無く一枚の食パンを4人家族で分かち合ってた事！学校に行っても心の中に封印してしまった感情！子供達はここでは話しても良いんだと一瞬に理解しあえた!!



やすい、走ると足の裏が痛い等いろいろな症状が出ています。一定期間の転地保養が免疫力を高めるのに効力があるのはチェルノブイリの子供たち保養で実証済みです。

チェルノブイリの人達は福島原発の事故以降、「自分達はもういいから、福島の子供達を守ってやって欲しい」と伝えてきています。今を生きる自分に何が出来るか？

問いかけながら歩き始めました。(写真は当時のチラシです)

エベコロベツ自給のむらプロジェクトの運営は自給のむらの住宅を中心に周辺地域の酪農家、ボランティアスタッフで行い、資金は町内の店舗に募金箱を置かせてもらったり、講演会での会場カンパ等で集めています。

保養の受け入れは小学生だけで中学生はボランティアスタッフとして参加、期間は10日から2週間で人数は小学生5人と中学生ボランティアスタッフ、受け入れるのは長期休暇の春、夏、冬1年で5~6回になる。食事は献立から参加者のミーティングから始まり、料理、食器洗い、後片付け掃除も全て自分達で行い、最初は戸惑っていた子供達も一瞬にして分かり合えていく。

特にあの3月11日の原発事故と家族と共に西に

帰る頃には見違える程元気になり成長していった。帰ってきた子供達の変化は親たちも変えていった!

毎年参加する子供達も増えてきたが、事故から12年を区切りに保養の受け入れは終了させてもらった。

主な理由は2011年に生まれた赤ちゃんが12才になった事。成長の過程で細胞分裂が続き、ほぼ大人の細胞になる12年間、できるだけダメージを受けない様にと

転地保養を行なってきたのです。

身体だけでなく、精神的な逞しさも身につけたと



思います。

来春には農業、調理師、建築関係、留学等自給のむらで培った能力を活かしていろいろな分野に逞しく飛び立って行きます。(次号へ続く)

ALPS 処理汚染水差し止め訴訟意見陳述

原告 中 島 孝

中島 孝と申します。

私は現在69歳ですが、この40年間、相馬市で地元の魚を主に扱うミニスーパーを営んできました。毎朝地元漁協のセリに参加し、ヒラメやスズキ、アイナメ、カレイなどを仕入れては、惣菜部の7人の力も総動員して、刺身、煮つけ、塩焼き、てんぷら、ムニエルなどを作り、販売しては、「おたくは刺身も煮つけも惣菜も、相馬で一番うまい」とお客に褒められるのが何よりの生きがいであり、誇りでした。地元の海のもつ力とそれを活かす我々の工夫、努力が実を結んでいるという自信が私のみならず、20人の従業員に共有されていたと思います。

ところが2011年の原発事故です。原発爆発の直後、地元漁協が「操業停止」を決定したのに伴い、地元産のさかなは1年3か月、全く途絶えました。

翌年の6月、試験操業が始められました。安全とされる海域で取れる、放射性物質濃度が低いとされる魚種に限り操業を認め、船ごとに水揚げされた魚のうち、頭とはらわたと骨を取り除いたものを1キロだけサンプルとして粉碎し、放射能濃度を測り、基準値内であれば流通させるという仕組みです。

はじめはタコとツブガイの2種類のみでしたが、漁協のセリ場に並べられたのを見た時、本当にうれしく、また懐かしい思いでそれを仕入れました。

1年ぶりの地元産のタコは本当においしいものでした。テレビで取り上げられたこともあり、どっとお客さんがやって来ました。さっそくぶつ切りに

して試食販売を始めました。年配のお客さんは、「やっぱりうまいねえ」とみなさん喜んでくれました。

小さな赤ちゃんを抱っこした若いご夫婦に、同じく「1年ぶりのタコだよ」と進めると、子どもを抱っこしたお父さんが「いや、いいっすよ、計ってるのはセシウムとヨウ素だけで、ストロンチウムとか他のは、計ってないらしいじゃないですか。ちょっとやばいかなと思って」と言われ、その一言にそれ以上すすめることが出来ず試食用の皿を引っ込めたのでした。お客さんの信用、信頼のために、1984年の創業以来いわば命を懸けてきた私にとって、これは衝撃の体験でした。

試験操業が始まりはしたものの魚種はわずか2種類です。それでは商売にならず、仙台市場を経由

して、日本海産や北海道産のカレイ類を仕入れて販売しました。ところが流通経路が長くなり、仕入値段が高くなるうえに、鮮度も落ちやすく地元産のようにおいしくありません。地元のさかなのおいしさが身についているお客さんは敏感に違いに気づき「高いけど、おいしくないね」とさっぱりです。

その後2012年の9月からは沖合で取れるコガレイも試験操業に加えられ、試験操業の魚が少しずつ増えてきました。地元産コガレイは、から揚げにすると甘みがあってとても人気が高いものです。

ある時、顔なじみの年老いた漁師が久しぶりにやってきて地元産のコガレイを見て「地元のカレイはうまいがらなあ。おれはもう年だから何くったっていいんだ。ただ息子はよお、『じいちゃん、孫の前で



魚食って見せん』っていうんだ。孫はちいせがら食わせたくねえんだべな」と言います。子どもは放射性物質への感受性がより強いという報道を見て、家庭内で魚を食べる、食べないでいさかいがおきていたのです。

私は国と東電に被害救済と原状回復を求めた「生業訴訟」の原告団長でもあります。ある日、私が試験操業のさかなを販売するところをテレビで見た原告の一人から「団長が地元産のさかなを販売する

んですか」と抗議の電話がありました。私としては自分の店をつぶすわけにはいかないし、地元を元気づけることにもなるのではないかと、あいまいな心のままで始めたというのが実際でした。このまま地元のさかなをあきらめて、屋台骨だった部門を切り捨ててはやっていけないだろうとの思いが強かったのです。

しかし、低線量被ばくと晩発性疾病などの報道に触れば、そういいたくなる気持ちはよくわかります。ですから抗議の声にまともな回答はできませんでした。そのことがあってから、後ろめたさというか、私の中に恥の感覚がぬぐえずに残っています。

原発事故から5、6年たった頃から地元産のさかなを食べる人が増えてきた感じがしました。しかしそれは、安全性に確信が持てたというより、家族内、地域内でのすれ違いに疲れ、心配すること自体に疲れたのではないかと思います。私は事故の前には、放射性物質についての知識は全くありませんでした。しかしチェルノブイリ原発事故では「大人のがんが10年経ってから有意な増加があった」との報道には何度も触れました。「低線量被曝は晩発性の疾病を引き起こす可能性がある」というのも、福島、事故後耳にタコ

ができるほど聞いたニュースです。

「危ないかもしれない」と思っているものを販売することは、むずかしいことです。自信も誇りも責任も持てませんから。「うちの店の刺身が一番うまいんだ、買わなきゃあなたが損をする」という売り手の側の迫力が出ません

私の店の現状は、売り上げも落ちています。売り手の熱意が、伝わらないのでしょうか。自分に嘘をつくのは、簡単ではありません。

私の店には「食べ物の3原則」という標語があります。食べ物は「見た目がよくて、食べておいしくて、食べた後は体によくて」この3つです。この最後、食べたあと体に良いと自信を持てるものをお売

りすることが、実は最も大事な商売の基本です。

この先何十年にもわたって汚染水を海洋放出することは、商売人の最も大事な魂を投げ出せということです。地質学の専門家たちが抜本的対案を出していると聞きます。国と東電はなぜこれを取り入れないのか。

人間の魂など持ち合わせていないとでもいうので

しょうか。

裁判の公正こそ、歴史の正しい指針を作ります。貴裁判所が、司法に期待される役割を果たし、このような不幸を繰り返さないよう、そして社会を進歩させる判断を示されることを心から訴えて、陳述いたします。



2025年食用キノコの汚染（飯舘村）

No	キノコ名称	キノコ	育成土	空間線量率	備考
		単位：Bq/kg		μ Sv/h(1m)	
1	猪鼻茸(香茸)	11,216	46,334	0.82	
2	松茸①	41,574	132,995	1.85	
3	松茸②	15,165	24,627	1.73	小
4	松茸③	12,144	78,612	1.89	中
5	サクラシメジ	18,600	60,850	0.89	
6	モミタケ	1,063	50,480	0.83	
7	アカヤマドリ	11,150	37,449	1.01	
8	カラカサダケ①	394	2,035	0.81	
9	カラカサダケ②	1,795	64,183	1.93	
10	アマタケ①	1,800	33,966	0.95	
11	アマタケ②	9,048	118,416	2.95	
12	シャカシメジ	167	9,283	0.77	
13	キブツナラタケ	2,787	761	0.82	育成土は樹皮の値
14	コウボウフデ	19,925	38,782	0.86	

表は今年飯舘村内で採取したキノコと育成土の汚染を示したものです。

今年は天候不順のせいでしょうかキノコの出が例年と大きく違いました、松茸が不作、例年あちこちで採取するチチタケはとうとう採取できませんでした。

キノコの汚染は全てで食品基準値 100Bq/kgを上回っています。

事故前は流通している原木椎茸の一部からセシウム 137 が検出されることはありましたが、その他のキノコに汚染はなかった。

土壌の汚染は単純平均でも 5 万 Bq/kg超の値である。

事故前も国内の土壌はセシウム 137 で汚染されていた、その値は 10~20Bq/kg程度でした。この値を見ても原発事故からの復興は困難であることがわかります。国は山林は除染しないと断言しています、するとセシウム 137 の物理的半減期(30年)で減衰するのを待つしかありません、300年を経て千分の一になります。

私が常々『**原発事故からの復興はない、あるとすれば 300年の時間薬**』と発言する根拠です。(飯舘村・伊藤延由)

職場・地域の活動を

是非ご投稿をいただき「声」として会報に載せたいと考えています。

◇電話 090 (2364) 3613

◇メール (國分) kokubunpisu@gmail.com